

文献

新田 尚, 1979: 台風業務実験 (TOPEX) とその準備会議開催について, 天気, 26, 562-564.  
 新田 尚, 1980: 台風委員会第12回会議に出席して, うず, No. 41, 1-2.  
 倉嶋 厚, 1979: TOPEX への第一歩, 気象, 8月号, 2-3.

気象庁業務課, 1979: 台風業務実験準備会議の開催について, 気象庁ニュース, No. 772, 89.  
 気象庁業務課, 1979: 台風業務実験準備会議終る, 気象庁ニュース, No. 774, 97-98.  
 増沢譲太郎, 1979: 台風業務実験計画を正式決定—台風委員会第12回会議—, 気象庁ニュース, No. 789, 173-174.



浅井辰郎・森田貞雄 共著  
**アイスランド地名小辞典**  
 付 カナ表記大判地図  
 帝国書院, 1980, A 4 版, 88頁,  
 2,500円.

アイスランドと言えば, 日本から遙かはなれた北大西洋上の瘠せた火山島という印象のみであり, ヨーロッパの中で早くから暗黒の中世を脱却した国で, よく古典を残すし, 西欧と同じ高さの文化国であることは, あまり知られていない. 本書の著者の1人, 浅井辰郎氏は長くお茶の水女子大学の地理学科の教授として, 気候学・地理学を担当した人であり, 20年近くもアイスランドにとりつかれ, 何回も訪問して地理学的立場からさまざまな

紹介と, 実証的な研究を行っておられる方である. 本書は, このアイスランド研究の第1歩として必要な, アイスランドの日本で最初の地名辞典である. 特にアイスランド製の75万分の1の地形図と, 裏に60万分の1の道路図が付いていて便利である. これには地名が約1,200あり, 振りカナもしてある.

アイスランドは日本の約3分の1の10万平方kmの広さで, 22万人が住んでいるが, 気象関係では, 120余の全気象観測点の読み方は辞典の中に記載されていて便利である. なお又, 地名には親切的な解説もあり, これからアイスランドの研究をするには必読の書である. 特に図書館には必要ではなからうか. 一読をおすすめする.

(坂上 務)



続気象学入門講座

これからの予定

(太字は既に掲載されたもの, ッコ内は掲載された巻号)

- 気象学へのガイダンス (25.4)
- 【基礎コース】
- 気象解析の手引き (25.5)
- 気象力学・気象熱力学 (25.6)
- 気象放射学への手引き (26.10)
- 高層大気物理学入門 (25.5)
- 雲物理学・降水物理学 (25.8)
- 大気電気学・大気化学 (25.12)
- 気象の観測と測器 (26.11)
- 気象統計について (25.7)
- 気候学 (27.7)
- 生活と気象 (25.6)
- 【アドヴァンスト・コース】
- 気象予測論 (25.7)

- 回転流体力学を学ぶために (25.6)
- 対流論 (25.6)
- 中小規模現象の気象学 (25.11)
- 大気大循環論 (26.2)
- エーゾルの気象学 (27.2)
- 気候変動 (27.5)
- 熱帯気象学 (25.8)
- 高層大気力学の諸問題 (25.9)
- 高層大気物性 (26.3)
- 大気境界層 (26.12)
- 衛星気象学 (25.8)
- レーダ気象学 (26.12)
- 惑星気象学 (25.7)
- 気象の観測と測器一般および自動気象観測・通報システム (27.6)

- 応用気象学
- 大気汚染 (26.10)
- 実験気象学 (25.10, 26.5)
- 天候・気候変遷の気象学
- 海洋気象学 (25.9)
- 極地気象学 (26.9, 27.4)
- 気象災害論 (25.9)
- 気象教育論
- 気象データ処理法 (26.4, 26.11, 27.3)
- 【研究のすすめ方】
- 最近の気象資料 (26.8)
- 論文の書き方 (27.1)
- 気象学教科書・参考書のリスト (27.5)